

寺島祉史 （しげしげ） 科學史家、小説家。明治二十六年十月（二十四日）北海

道生れ、昭和二十七年四月（二十一日）歿（一八三―五二）。本名政司。筆名

寺島朽秋、歌古川文鴛、白木陸郎。小學校卒業後労働者、のち新聞記

者。井田秀明（笠馨）、藤井道澄等と大衆日本社を創設、民族主義的

文化運動に携はる。その後、科學史を中心とした著述に従事。

著書 『人情秘録 維新前後』（昭和十年四月）『二十五年日本論社』、『日本科

學發明物語』（昭和十年十一月）『二十五日日本論社』、『國士夜話』

『歌古川文鴛伝』 昭和十一年七月（二十五日）日本論社、『日本科學

發達史』（昭和十二年五月）『二十五日日本論社』、『日本民族の科學的優秀

性』（昭和十二年二月）『二十五日日本論社』、『初代中田喜次郎』帝

國興信所日報編輯、昭和十二年五月十五日帝國興信所、『寶庫千島

一附権大盛衰物語』（昭和十四年十一月）『二十五日日本論社』、『國

難』入傑』（昭和十五年八月）『二十五日日本論社』、『科學日本の偉

力』（昭和十五年十一月）『日本科學者物語』、『日本入科學者物語』

（昭和十六年五月）『二十五年日本論社』、『我等の北方―北進の中心』

（昭和十七年一月）『二十五年日本論社』、『日本科學史話』（昭和十七

年四月）『二十五年日本論社』、『世界科學史年表』（昭和十七年七月

十五日）『二十五年日本論社』、『日本科學者物語』（昭和十七年七月）『二十

五年日本科學者物語』（昭和十七年十月）『二十五年日本論社』、『十

島祉史選集』（内題「續切小説名作帖」昭和十七年十一月）『二十五年松

堂』『勞後の光文庫』（『開拓者野町大村』）（昭和十七年十一月）『二十

五年日本論社』、『海峽アムネ』（昭和十八年一月）『二十五年東水社』、『馬

蹄』『馬五千料』（昭和十八年七月）『二十五年青葉書房』、『世界のなな日本科

『學者』(昭和十九年八月十五日京書房)、『湖畔の隨想』(昭和二十
 二年四月、二十日北海道・能瀬文洋堂「オオイツク叢書」)、^{『冒険』}『海底
 の魔城』(昭和二十二年五月、二十日青葉書房)等。

